

東北文教大学  
東北文教大学短期大学部

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	東北文教大学			設置者名	学校法人 富澤学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成23年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
						実数	個別	
人間科学部	子ども教育学科	90人	幼一種免	平成22年度	—	—	—	—
			小一種免	平成22年度	—	—	—	—
入学定員合計		90人	合計		—	—	—	—
大学名	東北文教大学短期大学部			設置者名	学校法人 富澤学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成23年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
						実数	個別	
	子ども学科	90人	幼二種免	昭和42年度	113人	106人	106人	19人
入学定員合計		90人	合計		113人	106人	106人	19人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成24年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。							

## 教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成24年11月8日（木）

実地視察大学：東北文教大学・東北文教大学短期大学部

実地視察委員：渡辺三枝子委員、高旗浩志委員

### 【全般的事項】

- 教員養成に関する教育課程、教員組織については、全般的に基準を満たしており、努力している様子が伺えた。
- 引き続き教員養成の水準の維持向上に努めること。

### 【個別事項】

#### 1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 建学の精神である『「敬・愛・信」の道徳律を基盤に据えて』と、教員養成に対する理念・構想を示しているが、それを明確化・具体化するための、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように努めること。

#### 2. 教育課程（教職に関する科目及び教科に関する科目）、履修方法及びシラバスの状況

- 子ども教育学科は、幼稚園教諭免許状取得を基礎としつつ、保育士資格取得クラスと小学校教諭免許状取得クラスに分けて指導しているということであったが、教職課程を履修する学生が、免許状取得に必要な専門的知識・技能を十分に修得することができる環境を確保する観点からも、安易に、複数の資格の取得を認めることのないように留意すること。
- 多くの免許状・資格を取得した学生を輩出することを目的とするのではなく、貴学の教員養成の理念を体現するような教員養成や質の高い教員養成という観点に立ち、教育課程等がより一層充実したものとなるように努めること。
- 教職に関する科目について、教育職員免許法施行規則第6条第1項に定める「含めることが必要な事項」が含まれているか否か、シラバスからは判断できない科目があるため、法令で扱うこととしている科目は必ず扱うとともに、シラバスにおいて「含めることが必要な事項」が含まれていることが明確にわかるようにすること。

#### 3. 教育実習の取組状況

- 教育委員会と十分に連携を取り、小学校の教職課程において実習校は山形市内の公立小学校を確保している点が評価できる。

○教育実習参加の条件として、GPAの基準を設けている。1.5以上2.4未満の学生には実習前に面談指導を行うなど、基準を満たさなかった学生についても、適切な指導しようという丁寧な指導姿勢が見られた点について評価できる。

#### 4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○センターが多数設置されているが、センター同士の関係・連携体制が見えづらかった。教育実習を担当するセンター、教職科目のカリキュラムを担当するセンターを統合するような組織を作るなど、有機的に機能するような体制の検討を今後期待する。

○教職指導は、学生が教職についての理解を深め、教職への適性について考察するとともに、各科目の履修等を通して、主体的に教員として必要な資質能力を統合・形成していくことができるよう、大学が計画的・組織的に指導するものである。履修カルテはその教職指導にあたって有効な手立てであることから、例えば、履修カルテにおいて、学生に対する教員からのコメントを記入するようにするなど、教員が学生の良い部分を引き出せるような仕組みを検討いただきたい。

#### 5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○山形市教育委員会、上山市教育委員会と協定を結び、学校現場のニーズに対応した支援を行う「スクールサポーター」や、東京都町田市教育委員会を通じて実施している「大都市観察実習」、山形県内にある小中学校を訪問する「へき地小規模校観察実習」のほか、山形大学のシンポジウムに協力するなど、教育委員会や学校、山形大学と十分な連携が取れているように見受けられた。今後は事前・事後指導を充実させるなど、ボランティア活動を積極的に教職指導に活用することをご検討いただきたい。教職に関心のある学生が、早い段階から学校におけるボランティア活動等を通じて、教職の魅力や教員としての適性等を把握した上で、教員免許状の取得を目指すことは重要であることから、今後も教育委員会や学校、他大学と、積極的な連携を図り、学校現場体験等を内容としたボランティア活動等の充実に努めていただきたい。

#### 6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

○教職関連図書及び雑誌を計画的に整備し、充実させていくこと。

○教職関連の図書、採用試験の過去問題集、専門書などが図書館のほかに教職実践センター、進路支援センターなどのそれぞれ違う場所に分散して配置されていたが、教職を志す学生が、教職に係る最新の情報を簡便に入手できるよう、教職関連の図書を1ヶ所にまとめるなど、配置の工夫や内容の充実に努めること。

7. その他特記事項

- 「英語特修プログラム」を開設し、特定の授業を修得した者については、単位を与えるだけでなく「修了証明書」を交付するなど、英語力向上のために工夫している点について評価できる。
- 教育開発研究センターが中心となって、教員のファカルティ・ディベロップメントに取り組み、メールマガジンの配信などにより教員が共通意識を持つように工夫されているが、この取組みが教職課程においても効果的に活用されることを期待する。